



2019 年 Announcements

NetApp
July 19, 2022

目次

2019 年	1
NetApp HCI のドキュメント	1
スタイルガイドおよび構文リファレンス	2
NetApp SaaS Backup for Salesforce のドキュメント	3
NetApp Active IQ のドキュメント	4
新しいページの RSS フィード	5
Cloud Tiering のドキュメント	5
コンテンツ制作者向け GitHub アバター	6

2019 年

NetApp HCI のドキュメント

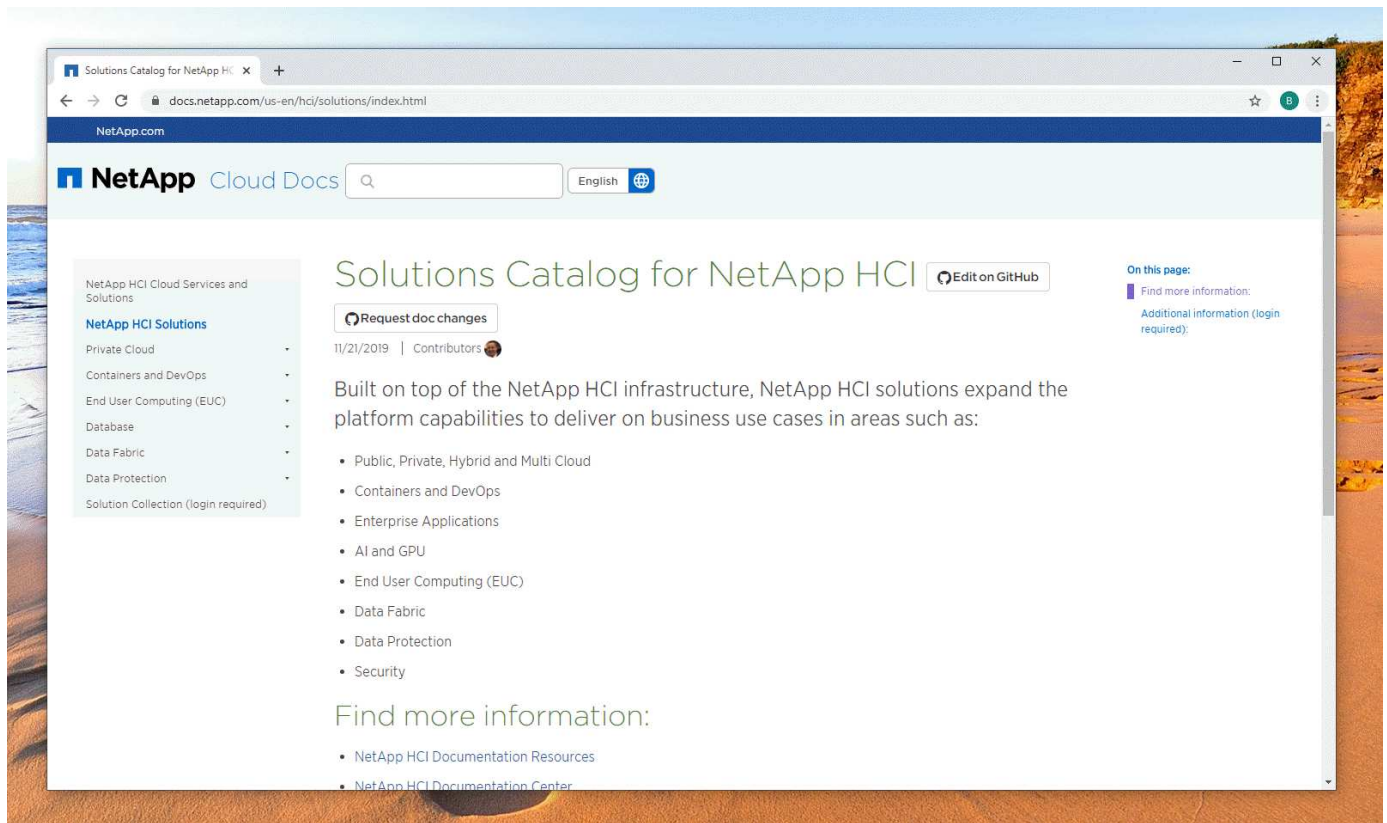
NetApp HCI でクラウドサービスを有効にし、NetApp HCI ソリューションカタログにアクセスするためのドキュメントを追加しました。

に進みます ["NetApp HCI クラウドサービスとソリューション"](#) NetApp HCI でクラウドサービスを使用する方法、および NetApp HCI でのソリューションの使用方法については、[を参照してください](#)。

クラウドサービスの情報では、NetApp HCI ハイブリッドクラウド制御を使用してクラウドサービスを有効にする方法、クラスタを作成してアプリケーションを迅速に導入する方法、および NetApp Fabric Orchestrator を使用して NetApp HCI で Cloud Volume を作成する方法について説明します。Fabric Orchestrator は、ストレージとデータの管理を行う一元化されたコントロールプレーンです。ストレージ資産とデータ資産をあらゆる場所で検出して管理できます。

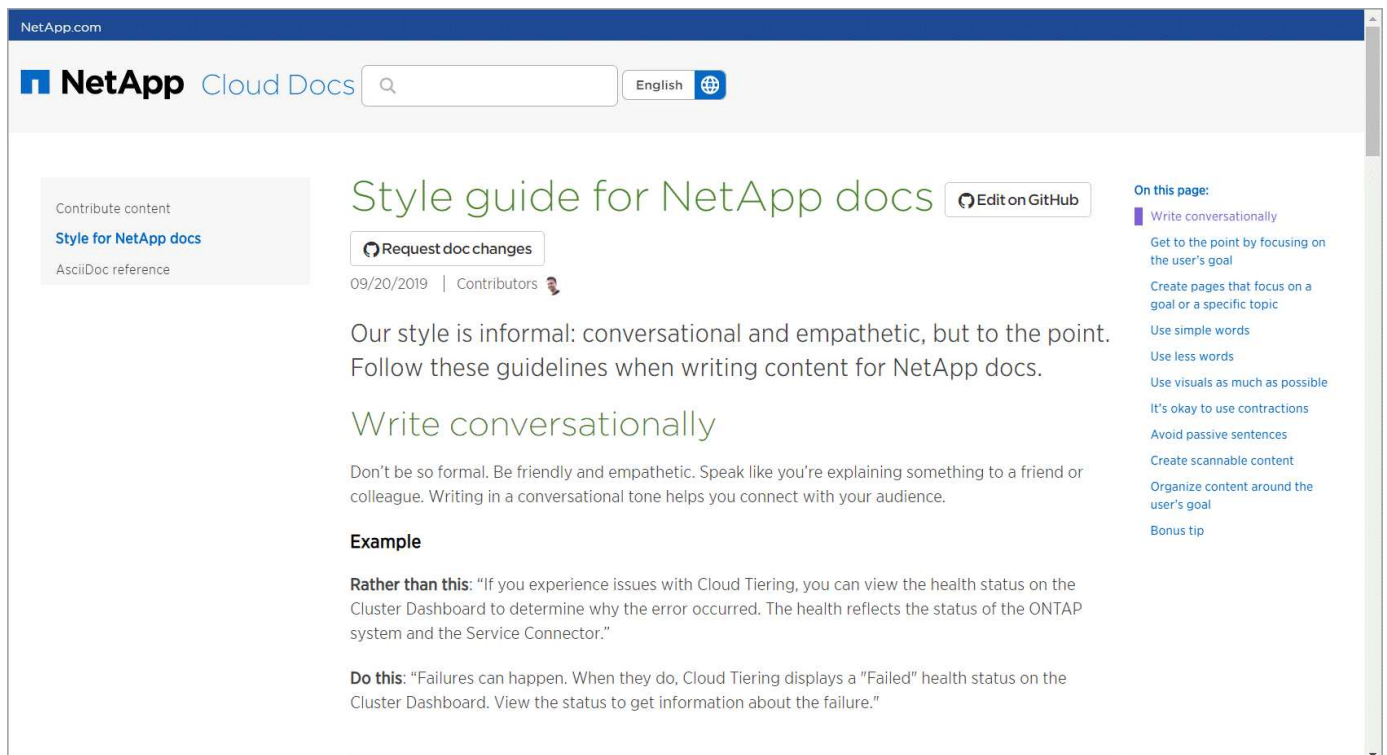


また、プライベートクラウドの導入と運用に必要な情報をお客様に提供する NetApp HCI ソリューションカタログを追加し、オンプレミスとオフプレミスの両方にわたるさまざまなユースケースをサポートします。NetApp HCI ソリューションは、DevOps、エンドユーザコンピューティング、エンタープライズアプリケーション、人工知能、データ保護、データファブリック管理などのテクノロジー分野で、パブリッククラウド、プライベートクラウド、ハイブリッドクラウド、マルチクラウドにわたって付加価値を提供します。



スタイルガイドおよび構文リファレンス

を更新しました "寄稿者向けガイド" GitHub に格納されているネットアップドキュメントの形式と構文をカバーするため。



いくつかの理由から、コンテンツの一部を GitHub に格納し始めました。重要な理由の 1 つは、コミュニティによる貢献を可能にすることです。ネットアップのドキュメントはパートナー様からのフィードバックにより改善されています。ネットアップのお客様、パートナー様、およびネットアップの従業員からのフィードバックです。

フィードバックを提供する 1 つの方法は、GitHub に保存されているソースコンテンツを編集することです。



コンテンツの更新を送信できるように、次の情報を追加しました ["寄稿者向けガイド"](#)：

ネットアップのドキュメントのスタイルガイド

この軽量ガイドに従って、ネットアップのドキュメントのスタイル（会話型と共感型）を説明します。

AsciiDoc リファレンス

Markdown に似た軽量マークアップ言語である AsciiDoc 構文を学習するには、次の参照先を参照してください。

これらのリソースはネットアップのマニュアルにご参加いただき、誠に恐縮ですが、今後の参考にさせていただきます。ソースコンテンツを直接編集しない場合でも、[*Request doc changes] をクリックしてフィードバックを送信できます。フィードバックを確認して、そこからお寄せください。

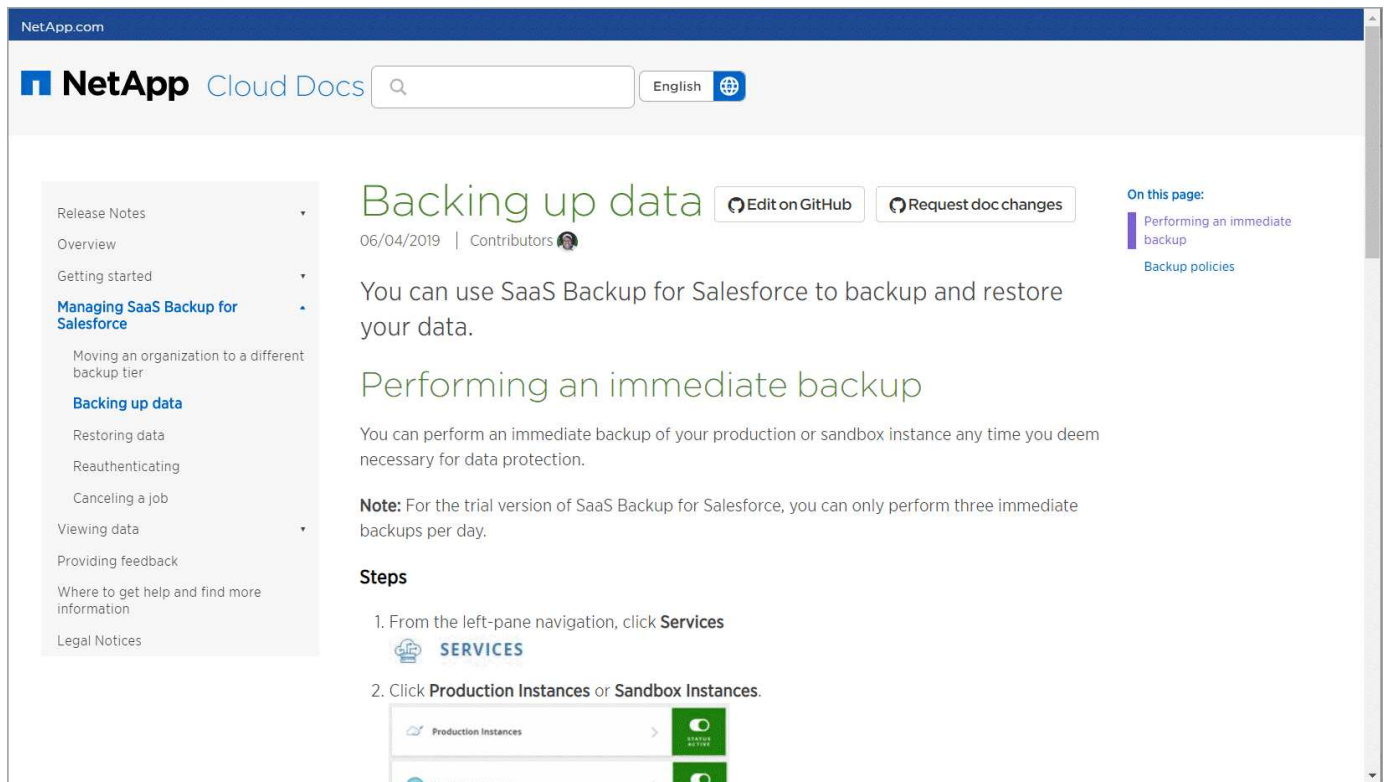
ご協力になりました。

NetApp SaaS Backup for Salesforce のドキュメント

新しいネットアップサービスのドキュメントを追加しました。NetApp SaaS Backup for Salesforce のドキュメントがから入手できるようになりました ["docs.netapp.com"](https://docs.netapp.com)。

NetApp SaaS Backup は、Salesforce データを Amazon S3 ストレージにバックアップする、セキュアなクラウドネイティブサービスです。SaaS Backup を使用すると、脅威や予想外の削除からデータを保護できます。

にアクセスします ["NetApp SaaS Backup for Salesforce のドキュメント"](#) をクリックして、開始方法を確認してください。



NetApp Active IQ のドキュメント

NetApp Active IQ のドキュメントが公開されました "docs.netapp.com".

NetApp Active IQ インテリジェントエンジンは、ネットアップのハイブリッドクラウド全体にわたって運用を最適化するための予測分析とプロアクティブなサポートを提供するクラウドベースのサービスです。

にアクセスします "[Active IQ のドキュメント](#)" をクリックして、開始方法を確認してください。

NetApp.com

NetApp

English

Health summary

04/01/2019 | Contributors

[Edit on GitHub](#) [Request doc changes](#)

What is the purpose of the health summary section?

Health Summary section proactively identifies risks in deployed NetApp® storage configurations that can negatively affect system performance, availability, and resiliency. Each risk entry contains information about the specific risk to the system, potential negative effects, and links to risk mitigation plans. By addressing identified risks proactively, you can significantly reduce the possibility of unplanned downtime for your NetApp storage system.

What is the access policy for this health summary module?

Like the rest of Active IQ, this module, too, is accessible to all customers whose systems are covered by a valid hardware warranty contract, with AutoSupports enabled.

Is there a requirement to correct risks that are identified?

NetApp recommends resolving identified risks within suggested time frames to avoid adverse system impacts. A severity with the recommended time frame in which the resolution should be implemented is included in details of each risk: for example, immediately, next scheduled maintenance, and so on. Not resolving identified risks increases your chance of encountering system issues that would have been avoidable if corrective measures was taken.

Is a support case automatically opened for identified risks?

No, cases are not automatically opened for risks.

What are the system hardware and software requirements?

The following are the software and hardware requirements for system risk analysis:

- AutoSupport enabled

On this page:

- What is the purpose of the health summary section?
- What is the access policy for this health summary module?
- Is there a requirement to correct risks that are identified?
- Is a support case automatically opened for identified risks?
- What are the system hardware and software requirements?
- Are all risks to the system identified?

新しいページの RSS フィード

RSS ボタンをドキュメントの「新機能」ページごとに追加したので、お気に入りの RSS フィードリーダーでコンテンツの更新を受け取ることができます。フィードを通じて、ネットアップの製品やサービスで導入された新機能や拡張機能を常に最新の状態に保つことができます。

関心のある製品またはサービスの「新機能」ページにアクセスします。の例を次に示します "[Cloud Tiering Service](#) の略"：

What's new in Cloud Tiering

09/09/2019 | Contributors

[Edit on GitHub](#) [Request doc changes](#)

RSS SUBSCRIBE

NetApp periodically updates Cloud Tiering to bring you new features, enhancements, and bug fixes.

お使いの RSS フィードリーダーに応じて、ページ URL をコピーするか、* RSS Subscribe * をクリックしてフィード URL をコピーします。リーダー内の URL を検索して、次の手順を開始します。ページが更新されるたびに、フィードに更新情報が反映されます。

Cloud Tiering のドキュメント

ネットアップの新しい Cloud Tiering サービスのドキュメントをに用意しました "docs.netapp.com".

Cloud Tiering は、NetApp FabricPool テクノロジーをベースにしており、ONTAP クラスタ内の使用頻度の低いデータを特定し、クラウド内の低コストのオブジェクトストレージに自動的にかつシームレスに移動します。

にアクセスします "[Cloud Tiering のドキュメント](#)" をクリックして、開始方法を確認してください。

The screenshot shows the NetApp Cloud Docs website. The main heading is "How Cloud Tiering works" with a date of 08/06/2019 and a link to "Edit on GitHub". Below the heading is a paragraph explaining that Cloud Tiering is a NetApp-managed service using FabricPool technology to tier inactive data from on-premises ONTAP clusters to object storage in the cloud. A diagram illustrates the relationship between the Cloud Tiering service, the Service Connector, and the Cloud provider's Object storage. The Service Connector acts as a bridge, using HTTPS for ONTAP API operations and data transfer over an HTTPS connection to the Object storage. A sidebar on the left lists various Cloud Tiering topics, and a right sidebar lists related links like "Overview", "NetApp Service Connector", and "Object storage".

コンテンツ制作者向け **GitHub** アバター

ドキュメント内の各ページに、ページに貢献したユーザーの GitHub アバターが含まれるようになりました。この変更は、ネットアップドキュメントコミュニティ主導の目標を達成するためのものです。

プル要求を作成することで、ソースコンテンツに変更をコミットしたすべてのユーザーの GitHub アバターが表示されます。作成者は、お客様、ネットアップパートナー、または従業員のいずれかです。次に例を示します。

The screenshot shows the "NetApp Cloud Volumes Service for AWS documentation" page. It features a heading, a date of 01/24/2019, and a list of contributors represented by small circular avatars. A red arrow points to the avatars, highlighting the new feature. Links for "Edit on GitHub" and "Request doc changes" are also visible.

専門家でも初心者でも、コンテンツに変更を加えることができます。そのため、投稿内容には不慣れです。

アバターは小さいので、ドキュメントパスを見るたびにネットアップライターの顔に圧倒されることはないことに注意してください： [□]

著作権情報

Copyright © 2022 NetApp, Inc. All rights reserved. 米国で印刷されていますこのドキュメントは著作権によって保護されています。画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体などの機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。テープ媒体、または電子検索システムへの保管-著作権所有者の書面による事前承諾なし。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、いかなる場合でも、間接的、偶発的、特別、懲罰的、またはまたは結果的損害（代替品または代替サービスの調達、使用の損失、データ、利益、またはこれらに限定されないものを含みますが、これらに限定されません。）ただし、契約、厳格責任、または本ソフトウェアの使用に起因する不法行為（過失やその他を含む）のいずれであっても、かかる損害の可能性について知らされていた場合でも、責任の理論に基づいて発生します。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、またはその他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1 つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許により特許、その他の国の特許、および出願中の特許。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7103（1988 年 10 月）および FAR 52-227-19（1987 年 6 月）の Rights in Technical Data and Computer Software（技術データおよびコンピュータソフトウェアに関する諸権利）条項の（c）（1）（ii）項、に規定された制限が適用されます。

商標情報

NetApp、NetAppのロゴ、に記載されているマーク <http://www.netapp.com/TM> は、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。